

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム菜の花しのろ館Ⅰ	評価実施年月日	平成20年10月30日
評価実施構成員氏名	清野 留美子 川上 夏美恵 柳橋 時子 佐藤 勢津子 舘田 康子 竹内 一美 畠山 新一 上山 マツエ		
記録者氏名	清野 留美子	記録年月日	平成20年11月10日

北海道

は外部評価項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを 支えていくサービスとして、事業所独自の理 念を作り上げている。	事業所のケア理念、ホーム理念の中に地域とのふれあいや住み慣れた地域での生 活を組み入れている。	○	理念はホーム内の目に付くところに掲示している。
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の 実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフルームに理念を掲示、また、ネームプレートに理念が記入された用紙を常に 携帯するなどして、いつも理念を意識している。	○	本社の新人研修で理念について伝えられており、ミーティング時に復唱し たりしながら、理念の実践にも取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続け ることを大切にしたい理念を、家族や地域の 人々に理解してもらえるよう取り組んでい る。	玄関入り口や面談室等にも理念を掲示している。また、定期的な運営推進会議開催 や毎年の家族会を通じて、地域の中で暮らしていく大切さを説明している。	○	運営推進会議や家族会において、利用者にも参加いただき、地域で暮ら し続ける重要性を説明している。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声 をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえる ような日常的なつきあいができるように努め ている。	散歩や外出時にお会いした時は、挨拶を交わす。また、話題によってはお話したり、 行事にお誘いし、実際にきていただいている。	○	気軽に来ていただけるように、開かれた印象をアピールする。特に、行事 や外での行事が終わった後など、「どんな所ですか」という興味を持った 方に見学していただいたこともあったので、機会があればそのような場を もっと持ちたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に 参加し、地元の人々と交流することに努め ている。	町内会での催し物に可能な限り、出かけ、今年度は夏祭りのフリーマーケットにも参 加させていただき、売り上げを婦人部に贈呈した。また、散歩の際には、火バサミ、ゴ ミ袋持参でゴミ拾いをしている。	○	参加可能な地域でのイベントには、できるだけ参加していきたい。また、イ ベントを通じて小・中学生との交流の機会を持てたので、継続させたい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り組 んでいる。	運営推進会議等で、日常で介護に対する悩みや疑問、また相談にも気軽に応じるこ とができる旨を伝達している。		見学をはじめ、飛び込みの電話相談(グループホームとはどんな所か？ 自宅で親を介護しているが、在宅介護が限界になった時、入居できるか 等)にも応じ、必要性がある場合は、諸機関の紹介をする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回の評価で改善すべき点を、常々確認、伝え合い、実施するように努めており、全職員で自己評価に取り組んだ。		地域との交流(町内会を通じてのみでなく、園児や小中学生との交流)の機会を設けるようにし、また、他のグループホームの状況など、管理者連絡会や研修会等の場を通じ、伺っている。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者様やご家族様、構成員となったださっている地域の方々等に、日々の暮らしぶりや行事等について報告をおこない、町内会の方よりアドバイスをいただき、よりよくすべき点については話し合いを行なっている。	○	運営推進会議を通じて、町内の方々の応援を期待できる緊急連絡網を作成したり、避難訓練や救急救命講習を一緒におこなった。ホームからの提案だけでなく、話し合いを深め、共同で取り組めることには、貪欲に取り組んでいきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	管理者会議の時に、市の担当者の方からの業務連絡を受け、それを必要時ホームにおいて伝達、実施すべき事項は随時おこなっている。また、疑問点があれば、市の担当者に、その都度質問し、理解に努めている。	○	管理者会議以外でも、急を要することは、ファックスにて市の担当者から連絡があるので、確実にスタッフ間にも周知させ、ケアに活かすようにしている。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者会議や外部研修で、地域権利擁護事業や成年後見制度についての研修を受けた。また、現在ホームで活用の該当者はいない。	○	今後、必要な入居者様には、支援していきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会議や研修を通して、虐待について、学び、強い認識のもと、介護を実践している。	○	定期的な学びの機会を持ち、虐待についての強い認識を保つ、また、新規入居者様は、自宅でそのようなことがなかったか、全身状態の観察を行なうようにしている。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事業所の担当者により、契約を行なっている。十分な理解が得られるようにしており、納得を得られない場合や検討したいという場合には、時間を置いて、再考できるような配慮も行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様からの意見は、日々の対話の中からも把握するよう努め、それを直ちに改善できるよう検討している。管理者や職員に訴えられない場合、外部の苦情処理を承るところも掲示してある。	○	苦情処理ノートに個別対応を要する場合は記録として残している。外部に不平・不満、苦情等相談する前に、管理者や職員に話せるような関係作りをこころがけている。また、思いを伝えられない入居者様には、言葉や態度、表情から察する努力をしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	個々人の状態・状況に応じて、ご家族様には電話にて、もしくは面会時、健康状態や暮らしぶりについて、報告するように努めている。金銭管理については、個人出納簿で出入金の内容を定期的にご家族様に郵送している。職員の異動に関しては、退職者に関しては詳細に知らせておらず、新入職員の紹介を行なっているののみが現状である。	○	ご家族様に対して、利用者様の暮らしの様子については、職員の手書きによるお便り、ユニット単位での広報を郵送し、写真からは表情をお伝えできるように努めている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様からの意見は、面会時や電話などで、気軽に話していただけるように、努めている。又、玄関にご意見箱を用意してある。	○	運営推進会議や家族会などで、直接もしくは代表の方から意見を聞いている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議や日々のミーティングを通して、職員の意見や提案を出せるように取り組んでいる。また、二ヶ月に一度、管理者会議、リーダー会議がおこなわれ、職員の意見や提案を聞く機会が設けられ、反映されている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	現在は、勤務調整はできている。しかし、外部研修その他で状況的に厳しい時もある。	○	入居年数が経つと、ADLの低下や医療面での援助が多くなっていく。今後どのように対応すべきか、人員増も含み、検討していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者は、新入職員に対して、新人研修を行い、また現場では、新入職員を入居者様に紹介、先輩職員が時に仲介役となり、早く馴染みの関係を築けるようにしている。離職者には、その原因をよく聞き、再考できる場合は、少し考える時間を与えて、結論を焦らせないようにしている。		家庭の事情等でやむなく離職する方には、引継ぎ等を通じ、その方がいなくなったことで、利用者様のケアに影響しないように配慮している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	教育課があり、入社時の新人研修をはじめ、高齢者や認知症介護に関する、職員のレベルアップのための社内研修、他、外部研修にも可能な限り、出席できるように運営者は取り組んでいる。	○	研修参加者は、研修を終えての感想文や復命書を書き、伝達講習をおこなっている。時間の関係で十分な伝達講習がおこなえない時は、資料等を他の職員が閲覧できるようにしたり、工夫している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同事業者内のグループホームでの交流、会議、研修は実施されている。地域の同業者との交流の機会は、地域での会合やイベントにて設けている。	○	相互訪問や互いのサービス向上までには至っていない。意識して、取り組む必要がある。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	スタッフルームがあり、休憩することができる。いつでも相談できる環境作りに努めている。また、介護部長もホームに来て、相談に乗り、アドバイスをしている。	○	意見や希望等、風通しのよい職場、閉鎖的な雰囲気にならない環境作りに励んでいきたい。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者や介護部長も現場に来所する機会は多い。研修の出席や資格取得を奨励しており、向上心が持てるように努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	可能な限り、入居前に実際グループホームを見学していただく。また、入居が決定した際には、ご本人の希望や不安に感じていることなど、よく聴く機会を設け、ホームでの生活に慣れていただけるように、努めている。	○	日々の生活の中で不安に思っていることを受け止め、共に考えながら、支援するようにしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の思い、状況を確認している。また、住居等を訪問し、ご家族の不安・意向を傾聴し、安心して利用者が生活できるよう、関係構築の努力をしている。	○	ご家族の在宅での介護の大変さや悩んでいることを充分話せる環境作りに努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まずどのような支援が必要か、検討し、対応できるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	生活している中で、個人個人、その人らしいペースがあるので、それを壊さずに、対応している。また、入居前に生活シートをご家族様に記入いただき、情報を得て、可能な限り、ご本人の理解に努めながら、ケアを提供している。	○	個別性もあり、職員や他の利用者に慣れるのも、比較的早い方、時間のかかる方いろいろである。ご自分から希望を伝えられる方には、できるだけ、希望を尊重しながら、それができない方にはご家族から、お話を聞いたり、相談しながら、馴染んでいけるように支援していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ケア理念にも「家族」として共に過ごし、と謳っているように、嬉しいことや楽しいことは共によりこび、悲しいことは慰め、怒りの感情も受け止めている。また、共に家事や作業することで、利用者に教えてもらうこともあり、感謝の言葉をかけ、互いに支え合う関係となっている。	○	なにげない普段の生活を通して、一緒に行動する、考える、感情の共有化をはかり、共に支え合う関係作りを続けたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話等を利用し、ご家族との連絡・連携を密にして、入居者様を、共に支えあうように、努めている。また、問題が発生した時は、職員間だけでなく、ご家族にも相談し、共に解決策や改善案を検討している。	○	利用者が不穏で、職員対応ではなかなか落ち着かない時、ご家族様に協力(面会や電話での会話など)いただくことで、利用者が冷静になったり、心穏やかになる事もあるので、お願いすることがある。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居時に記載していただいた生活シート(センター方式利用)からの情報をはじめとし、ご本人とご家族様の関係を理解するように努めている。ご本人がご家族に抱く思いとご家族がご本人に抱く思いを冷静に見極め、どのように関わっていけばよいか、熟慮しながら、支援している。	○	必ずしも、ご本人とご家族の関係が良好とは限らず、今日に至るまで紆余曲折で、様々な想いを双方が抱えていることも少なくない。そのことを踏まえた上で、これからの関係がよりよいものになるよう、双方の立場を考えて支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人が馴染みの人に面会等の機会を設けることができるが、場所については既に過去になっていたり、遠方で出向くことができないということがある。		機会があれば、大切にしていた方に面会に来て頂いたり、思い出話を職員が聞いている。アルバムを持参されている方には、写真を見ながら、説明していただくことで、ご本人の想いを大切にしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者様の人間関係をスタッフが把握し、喧嘩や孤立に至らないように、スタッフがうまく間に入ったり、橋渡しの役割を担うことにより、利用者様同士の関係が円滑に行くように働きかけている。	○	個々人の性格から、集団が苦手な方、嫌いな人とは関わりたくない方もおり、ご本人の意思を尊重しながら、支え合える関係作りを、状況に応じて作っていく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	継続した関わりが必要な場合は、様子をうかがったりしていたが、前回の自己評価から現時点では、対象となる方がおらず、実施はしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のコミュニケーションを通し、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握し、出来る限りその人らしい生活が送れるように努めている。	○	うまく伝えられない利用者様の場合、日々の行動や表情、サインから把握、時には、ご家族様から伺いながら、個々人の思いや希望を理解するように努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に記載いただいている生活シートや暮らしの情報、また、ご本人やご家族様から会話を通して、把握している。また、居室にも、なるべく馴染みの物を持参していただくようにしている。	○	関係が深まるにつれ、それまで知りうることのなかった事実や過去の出来事、経験、思いを知ることがあり、日々の関わりや一見、何気ない会話も大切にしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	特に心身状態によって、一日の過ごし方も異なり、その時の状態に合わせた対応を心がけるようにしている。有する力は、日々の生活の中で、さりげなく見極め、できることは褒めたり、お手伝いをお願いしたり、できるかぎり力を失わないように努めている。	○	できることやできそうなことを見極め、できそうな事に挑戦していただけるよう、支援している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人やご家族様の意向を聞き、更にアセスメント後、話し合い、介護計画を作成している。必要な情報は共有化を図り、介護支援専門員を中心に意見をまとめ、介護計画に反映させている。	○	担当者がアセスメントと介護計画のモニタリングをし、ご本人、ご家族様の意向を含め、カンファレンスの中で、課題や介護サービスについてスタッフ間で検討している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的には、3ヶ月毎に見直し、評価・立案している。状態や状況が変わった場合は追加課題を検討、見直しを行ない、新たな介護計画を作成している。	○	入居者様一人ひとりに対して、担当スタッフがあり、そこで新たな気付きや改善点等あれば、意見を出してもらい、その人らしいケア提供ができる意見は積極的に導入していきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録や介護日誌、朝夕の申し送り等で、まめに情報を共有している。介護計画とズレが生じてきた場合は、ミーティング時に提案し、再考し、介護計画見直し時に活かしている。	○	食事摂取量、水分摂取量、排泄状態、バイタルサイン等の身体状況及び日々の生活の様子や言葉なども個別記録に記入し、実践に活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	外出介助、受診同行、医療連携体制加算など、ご本人やご家族の要望に合わせた対応をおこなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアによる協力で、行事だけでなく、日々の生活に潤いを与えてくださるものもあり、ホームでの生活に活性化を与えてくださった。また、消防の協力・指導により、地域住民の方々と避難訓練や救急救命講習受講などおこなわれた。	○	ボランティアをはじめ、地域の方々との関わりや触れ合いは、利用者にとって地域資源との交流やいい意味で刺激となっている。一度いらした方が、また訪れたいと思えるようなホームにしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現時点では、他のサービスを利用する必要性のある方はいない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を通して、地域包括支援センターの方より、情報をいただき、協力関係を築いている。	○	今後、成年後見制度や権利擁護の件で、援助が必要な利用者様が出てきた時は、地域包括支援センターに依頼・相談していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	管理者が看護職員を兼務しているので、かかりつけ医(主に近隣で定期的往診依頼をしているクリニック)に報告・相談しながら、支援をおこなっている。		看護職員が常勤しており、日常の健康管理や医療面での相談・助言をしている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の進行が著明になり、日常生活に支障をきたすような場合は、認知症に詳しいとされる病院、もしくは医師が在籍している診療科に受診し、アドバイスいただいたり、治療を受けている	○	脳神経外科では、認知症の治療には積極的に取り組んでくれる病院は少なく、精神科では、その言葉にご家族が過敏に反応して、受診や継続治療に至るのが難しい。心療内科だと抵抗も薄らぐようなので、連携を取っていきたい。
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	管理者が看護職員であるため、日常の健康管理や何科を受診すればよいか等は、報告・相談しながら、支援できている。	○	常勤なので、普段の利用者様の状態も把握しているので、体調や状態変化に応じた支援ができています。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時はホームから、退院時は病院から、互いに情報交換の書面や相談等実施しており、入院が長期化しそうな時は、ご家族様より了解をいただき、担当医師と早期退院に向けて、相談している。また、お見舞いにいき、直接状態を確認しながら、退院時の受け入れ態勢を整えるようにしている。	○	入院生活が長期に及ぶと、環境の変化から認知症が進行してしまい、ホームへ戻ってきてから、ご本人も戸惑うことが予測されるので、早期に退院できるように、アプローチする。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所時に説明や同意書をいただいているが、その都度、状態に合わせ、ご本人やご家族の希望を尊重し、医療サイドと話し合い、納得の得られる選択ができるようにしている。	○	終末期には、ご家族、担当医師、介護部長、管理者、スタッフ共に、今後の介護について、検討していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	できるだけ、ホームで共に過ごしていただけるように考えている。担当医との話し合いで、できることできないこと等をご家族様、スタッフと相談している。	○	重度化や終末期の方の受け入れは、24時間対応の医療体制、人員、環境、研修等、多くの課題があり、それらを検討し、対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	移り住む場合は、できるだけ今迄の介護が継続されるように介護内容等、情報等情報提供をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	運営推進会議等で、日常で介護に対する悩みや疑問、また相談にも気軽に応じることができる旨を伝達している。記録等個人情報の取り扱いには厳重に行い、個人のケース記録に他者との関わりを記入する際はイニシャルにしたり、第三者の目に触れないように、保管場所等留意している。	○	利用者一人ひとりに合った言葉かけや対応にこころがけ、プライバシーを損ねないように気をつけている。また、入居時に個人情報の守秘義務について、契約書を取り交わしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個々の理解力に合わせて、言語表現をしたり、介護者が指示的にならずに、ご本人が納得もしくは自分の力で決められるように支援している。	○	日常生活の中で、ご本人も考え、決められるような場面設定をできるだけ多く提供していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できるだけ、ご本人の希望に沿うように努めてはいる。起床や入浴時間、食事にかかる時間等、ご本人のペースに合わせて対応している。集団で何かおこなう時も決して無理強いせず、ご本人の意向に沿って支援している。		優先順位にて、その日その時、すぐに個人の希望を叶えることができない場合は、理解力に合わせて説明し、別の機会に、もしくは他の方法で叶えられるように、努めている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	現時点では、訪問の理美容で満足されている。行事や外出時など、おしゃれや身だしなみを自分で整えられる方には奨励し、介助を要する方には希望や清潔感を重視しながら、支援している。		着衣失行のある方には、ご本人のプライドを傷つけないように、相応しい衣類選択を支援する。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	事業所の栄養士による共通献立で、食材も配達されている。その日の献立を掲示し、できる方には、食事作り等準備、配膳、後片付けなど一緒におこなっている。	○	和やかな雰囲気です召し上がっていただけるよう、席順を考慮したり、好き嫌いがある方に強制はしない。外食の機会には、好きなものを召し上がれるように配慮している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	事業所として、全館、禁煙となっている。お酒は希望されない。他の飲み物は、好みのものを飲んでいただき、おやつは希望を聞き、できるだけ好みの物を用意するように心がけている。	○	皆さんで召し上がるおやつも楽しみの一つになっているので、手作りのできたてのものも適宜お出ししたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を用い、各個人の排泄パターンを把握するようにしている。、トイレの場所を迷う方やリハビリパンツや尿探りパッドを使用されている方は、トイレ誘導を行い、失禁が軽減されるよう取り組んでいる。		便秘傾向の方には、ヨーグルトや野菜ジュース等、便通をよくする飲食物の摂取を取り入れて、下剤に頼らないように心がけている。ひどい便秘で、下剤が必要な方にも漫然と服用していただくのではなく、回数や症状に合わせ、医療との連携を基に、調整している。尿失禁を恐れて、水分摂取不足にならないように、支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に曜日やおおまかな時間帯は決めているが、その日の体調や気分によって、日にちや時間をずらすなど考慮している。ご本人に合った入浴方法で、ゆっくり入浴していただけるよう支援している。		入浴の順番で、もめることのないように、各自平等になるように、配慮している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	現在、入居されている方は、ほとんど自己判断して休息や睡眠をとっている。が、できない時は、状況や意思の確認の上、休息していただくよう支援している。		眠れない方には、温かい飲み物を飲んでいただいたり、コミュニケーションを取ったり、気分が落ち着けるような対応をしている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	役割に関しては、自分の仕事と思い、掃除、調理、洗濯物たたみ、茶碗洗い等行なってくれるので、時間がかかっても奪わず、お願いしている。介護者が感謝の気持ちを示し、続けていただいている。外出行事等も係りを設け、企画・実行している。	○	認知症の進行と共に、今までできていたことができなくなることもあるが、他にできることを探り、自信喪失しないように支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いとして、本社で預かる体制となっているが、例外的に少額所持されてる方はおられる。必要な物や欲しい物は預かり金で、いつでも買物ができる体制になっている。		ご家族と相談の上、紛失してもいい金額を持っている利用者様もいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ホーム周囲の散歩や買い物同行等、できるだけ実施するようにしている。ご本人の希望による買い物は代行だけでなく、一緒に行き、好きな物を自ら選んで買っていただくこともある。	○	散歩等、出かけることに積極的な方と消極的な方とおり、積極的なの方が回数的に多くなる傾向がある。全員で出かけるとなると、その場の雰囲気や普段は外に出たがらない方も自然と行ってみようという気持ちになる様子なので、そのような機会を更に設けたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出行事を毎月実施している。個別では、遠方になると、ご家族様と共にでかけることになるが、個人差がある。	○	遠方に出かける場合は、長時間になるため、ご家族の協力によるところが大きい。短時間であれば、状況にもよるが、計画・実施は可能である。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	特に規制はなく、利用者様本人が直接電話したり、手紙のやり取りもおこなわれている。	○	電話のかけ方がわからない、字が書けなくなった等の理由で、電話したい・手紙を書きたいという気持ちが薄れてしまわないように、支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は決まっておらず、ご家族の都合のよい時間に、ご本人の居室等にて、ゆっくり時間を過ごせるように努めている。	○	お茶をお出ししたり、おやつの時間に面会にいらした時には一緒に召し上がっていただいたり、状況によっては一緒にお食事をとっていただくなど、家庭的な雰囲気を出せるように配慮している。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	本社主催の「拘束」の研修には全職員が受講し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外は玄関に鍵をかけていない。	○	玄関にはセンサー設置、また出入り口ののれんには鈴をつけ、利用者に限らず、防犯面で人の出入りには注意している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	フロアで記録をし、常に目配りと所在確認をしている。居室にて過ごされる方は様子伺いし、安否確認をおこなっている。	○	夜間帯は優先順位を考慮し、職員の居場所を決め、いつでも対応できるようにしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬、洗剤、刃物等は、見えない所や鍵つきの場所に保管している。入れ歯洗浄剤や洗顔石けん等、日常的に使う個人の物は、状態に応じ、対応している。	○	現在、異食行為のある方はいないため、洗面道具等の個人用品は、利用者の使いやすいスペースに置いているが、今後、異食行為が見られるようになった時は、迅速に対応し、事故防止に努める。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	記録等は利用者がいるフロアで行なっている。また、キッチン是对面式のため、見守りながら、作業している。夜間は頻回の巡回と利用者の状態に応じた待機場所にいるようにしている。窒息に関しては、なるべく飲食は誰か介護者がいる所で、とっていただくようにしている。食事中は焦らせず、ゆっくり、職員と一緒に食べながらも観察を行なっている。また、薬は、氏名、日付、時間帯を声に出して、確認と薬の徹底をしている。離設のないよう見守り等、常に気を付けている。	○	インシデントレポートやひやりはっと報告を提出、スタッフ間で事故防止や事故原因を話し合い、対応策や再発防止に努めている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力により、年一回、救急救命法の講習は受けている。	○	講習を受けた＝実践できる、というわけではないので、社内外での研修等学ぶ機会を設ける、また慌てず、協力を得られる時はすぐ協力を得られるよう連絡方法を工夫する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の指導の下、避難訓練を実施、地域の方々にも参加していただいている。	○	運営推進会議を通じて、町内会役員の方に、地域の方々との協力・連携体制が得られるよう依頼し、緊急連絡網を作成している。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族様への説明、場合によっては話し合いや一緒に考え、その時々や状況でよりベストな方法を考え、実施している。	○	個々人に起こりうるリスク(転倒、離設、暴力行為等)と対応策について、ご家族と検討、了解を得ていただくようにしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状況を把握、更に、毎日バイタル測定や水分摂取状況や排泄チェックを実施し、体調の変化に気をつけている。いつもと何か様子がおかしいなど、気になる時は、その時に勤務している職員間で確認し合い、異常時には、迅速な対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方されている薬の内容は各自のケース記録に綴じ、いつでも確認できるようにしている。誤薬のないように、服薬介助時は、必ず名前、日付、時間等声出し確認し、きちんと飲み込むまで見守るように努めている。	○	薬変更時の注意点や副作用について、看護職員から説明及び連絡ノートに記載あり、全スタッフが把握し、ケアにあたっている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排泄チェック表に記録し、排便確認をおこない、便秘にならないように気をつけている。毎日、体操をおこない、水分摂取が足りない方には、水分をすすめる、便秘傾向の方には、野菜ジュースやヨーグルトなど便通をよくする補食をすすめている。	○	頑固な便秘症の方は、かかりつけ医より、下剤を処方してもらい、服用しているが、その時の体調により、排便量や性状が異なる場合は、その都度、医療と連携しながら、下剤調整などの支援をおこなっている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアを実施し、チェックしている。夕食後は、義歯使用者に対して、義歯の洗浄と洗浄液につけて清潔に留意している。	○	社内研修で口腔ケアの重要性について全スタッフが受講している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士により、カロリー計算がされており、バランスのよい献立となっている。食事や水分摂取状況はチェックし、不足時は補うように、努めている。入居時に、好き嫌いや食の程度を情報として得ており、例えば少食の方には、器は少し小さめにするなど、個別性を配慮した支援もおこなっている。	○	体重管理をおこなう、また、普段から食事の摂取量をチェックし、摂取量が明らかに低下した時は、調理の工夫をしたり、好きな物や医師から処方される栄養補給剤を補食し、必要なカロリー摂取ができるように支援している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを用意している。また、手洗い・うがいを習慣化するように努め、職員は手すりや取っ手など、多くの方が触れる場所は消毒するようにしている。予防接種も積極的に受けるようにすすめ、集団感染の防止に努めている。	○	インフルエンザ予防接種については、利用者及びご家族様の同意を得て接種し、職員も積極的に受けるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒対策として一日2回、台所・調理器具等の消毒を実施している。食材は早めに使い切り、残った食事は取っておかない。食材は一日置きに新鮮なものが配達され衛生管理に努めている	○	冷蔵庫内の賞味期限チェックや掃除を定期的に行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りには、大家さんが花を植えてくださり、明るく、親しみやすい印象である。また、玄関は段差もなく、階段の他、スロープ、手すりもつけられ、安全面でも考慮されている。	○	たまたま通りがかった方が見学させてほしいと立ち寄ることもある。管理者不在時等、職員の誰かが案内できるようにしたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感については、居間と廊下に季節に応じ、利用者様と職員で作成した壁絵を張ったり、季節の花やイベント(例:お月見、クリスマスなど)の飾りをしている。台所は、対面式で、職員と会話しながら、食事作りを楽しむことができる。居間には、ソファと大型テレビを置き、皆さんで楽しむことができるようにしている。テレビや音楽は雑音にならないように、必要性やボリュームを考慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓やソファでくつろげるようになっている。面談室の椅子や玄関のベンチに腰掛け、風景を楽しまれたり、居合わせた方同士で、談笑している姿も多々みられる。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具や装飾品、使い慣れた馴染みのものを持ち込んでいただくようにしている。ご自分で描いた絵や作った作品、お気に入りの写真など、居室の装飾も自由にいただき、ご本人が過ごしやすいようにしていただいている。	○	室内の床に物を散乱させて転倒しないように、訪室時チェックし、整理整頓に注意している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	設備的に換気扇が設置されており、また掃除等で訪室時には、窓を開放して換気を実施している。暖房調整は、ある一定以上高温にならないように設定されている。各居室に温度計を設置している。	○	利用者の状況に合わせ、室温調整や乾燥する時期は加湿器の使用をしている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリー設計であり、また手すりの設置や車椅子対応のトイレ、車椅子利用者も自走できる等、安全な環境づくりとなっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各居室には手作りのネームプレートが飾られている。トイレの入り口や廊下にも張り紙をして、わかりやすく、混乱をまねかないように工夫をしている。混乱している時や失敗した時は、不安を軽減できるように、さりげなく職員が対応するようにしている。	○	利用者一人ひとりのわかる力は、その日の状況や体調によっても異なり、何がわからないのかわからなく混乱している時もある。そのような状況下においては、見極めながら、対応する。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に畑を作り、成長や収穫を楽しんでいた。また、ベランダからは畑や花を見たり、洗濯物を干したり、活用している。	○	地域のボランティアの方と畑耕しや収穫を共におこない、楽しんだり、味わったりしている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ◎②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	◎①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ◎②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ◎②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ◎③たまに ④ほとんどない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	◎①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ◎②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ◎②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ◎②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

- ・共同生活の楽しさ、安心さと個人の自由な暮らし、両方味わえる場を利用者・職員お互いの協力の下作り上げている
- ・一ヶ月に1回、季節に応じたイベントや外出行事を企画、実施しており、同じようなものにならないよう少しずつでも工夫している
- ・個々人の状態に応じて、できることはご自分でしていただくよう自立支援を職員は意識してケアにあたっている
- ・運営推進会議を通じて、地域の方々やご家族様にご協力いただきながら、開かれたホームを目指し、新たな試み(町内会夏祭りのフリーマーケット・児童会館にて森の積木広場等)に取り組んできた